

## 平成30年度 亀田東児童館事業実施報告書

## 1 実施した事業

## 2 自己評価

## 3 課題と対応

## 1 健全な遊びを通じた児童の集団及び個別指導

## ① つくって遊ぼう！（創作活動室） 第2水・土曜日

(4/3、11、5/9、28、6/6、13、7/4、11、8/8、28、9/5、12、10/4、10、11/7、7、12/5、12、1/8、9、2/6、13、3/13、18)

(自己評価)

今年度は、幼児向けを第二水曜日に、小学生向けは土曜日を廃止し、下校の早い日に工作行事を行った。幼児向け工作では、0～3歳児位までの幼児が参加し、親子で取り組むことが出来る内容で行なった。子どもの発達に親が気付く場面もあり、工作行事を通じて親が子どもの成長の新たな気付きや発見の場となったと感じている。親子で一緒に作る事が子ども達にとって一番嬉しい事のように思えた。また、作った工作は家でも遊べるものを多く採用したため、家庭でも楽しんでもらえたのではないかと思う。小学生向けの工作では、子ども達が興味を持てる内容に努めた。季節にちなんだ工作などを行ない、多くの小学生やひまわりクラブからも参加してもらった。今年度は学業にちなんだ

時間割表や年末にはカレンダー作り、ミニオンのペン立てなどを提供した。一番人気はやはり「キラキラ系」。スノードームやステンドグラスなどは30人以上の参加がみられた。幼児、小学生共に物作りの楽しさ、完成出来た時の達成感や完成度、そして家に持ち帰って、家族にも喜んで頂いた様子が伺えたのが何よりだった。

(課題と対応)

内容充実にも努め、季節に合ったもの、カレンダーに沿ったものなど子ども達の意見を取り入れて行った。今年度も下校の早い日に設定したのは良かった。土曜日に行くより、子ども達の参加が多くみられた。今後も学校の日程の確認を怠らないよう注意が必要である。季節物、可愛い物は、ニーズがあるので次年度はそういった物を多く提供していきたい。今後も工作の内容や、PR活動のより効率的な方法を工夫していかなければならない。

## ② 遊戯室で遊ぼう！（遊戯室）

(4/23、5/28、6/25、7/30、8/27、9/25、10/29、11/26、12/27、1/28、2/25、3/29)

(自己評価)

集団遊びをキーワードに、ドッジボール、ペットボトル倒し、ボールゲーム、ジャンケンゲーム、ジャンボオセロなど今年度は運動要素を取り入れた様々な遊びを行なった。参加人数は内容によってバラつきはあるものの、異年齢同士が協力したり、チームで応援したり、高学年が低学年の見本になりルールを守ったりと児童館ならではの様子を随所に見ることが出来た。ひまわりクラブからも毎月参加があり、ひまわりクラブの

子ども達と児童館に遊びに来る子どもが交流することも出来た。

(課題と評価)

今年度は3月に「こども自然王国」から移動児童館で「遊戯室であそぼう！」を行った。昨年、大雪のため来られなかったが今回は無事にお迎えし、大勢の参加のもと楽しむ事ができて良かった。ひまわりクラブも参加でき、思い出を作るイベントになれた。毎年の課題ではあるが、児童館という施設の特性上、人数予測やチーム編成で難しい点があった。イベントの前日など、忘れてしまわぬよう申し込みをした子に声をかけるなど、多くの子どもに楽しんでもらえるよう配慮すると共に毎年の事ながら、子どもたちへの周知が課題であると思う。

### ③ シアター (遊戯室)

(4/2、5/4、8/13、1/7、3/25)

(自己評価)

昨年度の反省を元に、今年度はこども達の長期休みのみ行う事にした。普段の月は遊戯室を少しでもこども達の自由遊びに提供した方が、利用として求められている事を実感した。長期休みにひまわり全クラブを招待し、児童館のこども達と一緒に鑑賞してもらった。支援員さん達も喜んで参加してくれた事が何よりだった。

(課題と対応)

今後もしサーチしながら、子ども達の楽しみの1つとなれば良いと考えている。長期休みの時やそれ以外でも、ひまわりさんや親子さん、中高生と次年度も相談しながら臨機応変に行うようにしていきたい。

幼児さん達の観たいものと小学生の観たいもの、中高生の観たいものは全く違うので、そこはテレビをうまく活用しながら、あらためて「シアター」と名目はつかなくても、こども達のニーズに応えながら、臨機応変に楽しい観たい映画を提供していきたい。

### ④ アトリエじどうかん (創作活動室)

(4/2、5/7、6/11、7/2、8/6、9/3、10/2、11/5、12/3、1/7、2/4、3/4)

(自己評価)

昨年に引き続き、ボランティアの方により「アトリエじどうかん」を開催した。今年度は「夏休み」に「亀田縞」の端切れを利用して、そこに絵を書き、自作のコースターを作成。子ども達が楽しみながら美術に触れることが出来たと思う。ボランティアの方がとても一生懸命にイベントを行なってきて、絵や美術に興味のある子どもたちは毎回参加してくれるまでになった。親子さんの参加も随所にみられた。実際、回を重ねる毎に子ども達の絵の塗り方の技法が上達していく事が感じられた。地域の方達との触れ合いを大切にして、今後も継続して行いたいイベントである。

(課題と対応)

興味がある親子さん達が増えてきたように感じている。幼児達に提供するのもありだと感じた。先生は大変かもしれないが次年度も相談しながら、小学生の参加増に繋げられる工夫や幼児参加の内容等を検討していきたい。子ども達の反応を見ながら新たな「アトリエじどうかん」の形をボランティアの方と作りあげていきたい。

### ⑤ 各種イベント

- ・英語であそぼう (4/5)
- ・亀田東児童館開館 10 周年記念祭 (4/21)
- ・ひよこ広場/ミニ運動会 (5/30)
- ・お父さんとあそぼう！ドッジボール大会 (6/17)
- ・ひよこ広場/七夕のつどい (7/4)
- ・七夕の集い (小学生) (7/6)
- ・囲碁大会 (7/21)
- ・亀田地区公民館事業コラボ/おしえて！こども先生！ (7/21)
- ・夏休みお楽しみ会/新潟消防音楽隊 (7/23)
- ・なつまつり (7/29)
- ・小学生学習支援/KAMEじゅく (7/24、31)
- ・夏休み工作ランド/新聞ドーム (8/19)
- ・育児イベント/国際音楽エンターテイメント専門学校学生演奏 (8/24)
- ・小学生ドッジボール大会 (9/10)
- ・オセロ大会 (9/16)
- ・小学生バドミントン大会 (10/26)
- ・ひよこ広場/ハロウィン (10/25)
- ・小学生ハロウィンパーティー (10/30)
- ・中学生学習支援 (11/1～7)
- ・音楽会 (11/18)
- ・ぬりえコンクール (12/23～1/8)
- ・ひよこ広場/クリスマス会 (12/13)
- ・新春お楽しみ会 (1/20)
- ・ひよこ広場/豆まき (1/30)
- ・ふゆまつり (2/17)
- ・ひよこ広場/ひなまつり (2/27)
- ・育児イベント/親子で運動あそび (2/21)
- ・卒業・進級お楽しみ会 (3/19)
- ・育児イベント/赤ずきん (4/20)
- ・育児イベント/ベビーマッサージ (5/25)
- ・育児イベント/劇団たんぼぼ (6/20)
- ・育児イベント/リトミックあそび (7/20)
- ・ぬりえコンクール (7/21～8/28)
- ・中学生バレーボール大会 (8/24)
- ・育児イベント/劇団たんぼぼ (9/21)
- ・育児イベント/県立大なかよしコンサート (11/16)
- ・小学生クリスマス会 (12/25)
- ・育児イベント/親子ヨガ (12/27)
- ・小学生卓球大会 (12/26)
- ・冬休みシアター (1/7)
- ・育児イベント/親子でリトミック (1/18)
- ・園児交流会 (2/19)
- ・移動児童館 (こども自然王国) 3/29

#### (自己評価)

毎年恒例となっているイベントに加え地域一体となった音楽会、なつまつりやふゆまつりでは、亀田東小学校区コミュニティ協議会の地域との連携、地域、学生、子ども達のボランティアの支えもあり盛大に行うことが出来、「まつり」だけで 600 名を超える来館者も達成した。地域と共にある児童館を目指し、その目標が毎年すこしずつ色濃く体现されていく喜びを職員一同実感することが出来た 1 年だった。来年度も地域の子ども、地域の人たちと共にある児童館を目指し運営していきたい。

(課題と対応)

イベントを企画するにあたり、より多く子ども達から参加してもらいたいという気持ちで内容を考え、日程を調整している。毎月、毎日、日々職員間で話し合い、子ども達の意見を取り入れながらイベントを行っているが、自由来館ゆえ参加者数となって成果が表れないという時もある。それでも、次はもっと楽しんでもらいたいという気持ちが、職員の次のやる気のモチベーションにも繋がっている。今後も子ども達、地域の方たちのために全力を持って楽しんで頂ける様々な活動を来年度も行っていきたい。来年度は、「ドッジボール人気」にあやかり毎月交互に、低学年と高学年に分けて「ドッジボール大会」を行っていきたい。

#### ⑥ いどうじどうかん

(5/28、30、6/22、27、28、7/26、30、8/3、5、9、10、20、27、28、9/26、27、10/17、21、28、11/15、21、26、28、12/13、1/18、23、28、3/27)

(自己評価)

今年度は、ひまわり 11 クラブ、4 小学校、3 保育園など、24 か所に出向き「いどうじどうかん」を 32 回行った。1756 名の方達と触れ合う事が出来た。昨年よりも依頼件数が増し、活動が増えたことは、江南区全域に児童館の役割を果たす事と PR が出来るため、非常に嬉しく感じている。また、今年度は初めて本興寺保育園、横越なかの保育園に出向けたことも今後のいどうじどうかんの幅が広がる要因になると思う。

(課題と対応)

活動が広まっていくにあたり、段々と職員のシフトの調整が難しくなっている。児童館外の活動が増えることは職員の負担も増えるということである。が、児童館の存在を広める機会なので次年度もますます、PR 活動に力を入れ、職員の負担を考えながら、行き先の開拓を続けていく努力をしていきたい。

## 2 中学生・高校生等の年長児童の自主的な活動に対する支援

(自己評価)

中高生向けイベントを考える際に、どうしても試験、部活動の試合、練習などで来館が遠のく事も考えられる。居場所として児童館を求めている中高生がいるというのも事実。なので、来年度以降も継続して中高生が来館しやすい環境、使用しやすい環境を模索しながら整えていきたい。

(課題と対応)

中高生の来館が部活動や塾、大会等でイベント日程を決めても来られないケースが多々あるので日程を決めず、〇〇週間という形で次年度も取り組んでいきたい。「学習支援」や「スポーツ大会」等全てのイベントも週間単位で行っていきたい。他に月に 2 回、中学生の貸切日を決め「遊戯室」の全面あそびを提供していきたい。児童館に中学生の「居場所」を具体的に作っていく必要があると感じた。

⑦ 学習支援（中学生）

（自己評価）

中学生の意識が「児童館」は遊ぶ所であって勉強する所ではないという考えがまだまだある。その前にまずは、居場所としての場所作りを考えなくてはならないと痛感した。長期休みは大勢の中学生が来館してくれるが、普段はなかなか来れない。でも忘れず遊びに来てくれる中学生のために何が出来るか今後も考え、リサーチを忘れず、これからも持続して中学生にとっての勉強やあそびを楽しめる居場所として続けていきたい。

（課題と対応）

次年度は上記にも書いたが、試験日を踏まえ、部活動停止日のリサーチをしっかり押さえながら、冬場以外に日にちではなく、「学習支援」週間を設定し、学生ボランティアと職員で対応していきたい。勉強の居場所としての定着を進めていけるように努力していきたい。次年度こそ夏休み中に「中高生交流の場」を設定していきたい。中学校も協力して頂けるようなので、「学習支援」「中高生交流会」などのPRチラシを貼って宣伝活動に力をいれて周知してもらえるよう努力していきたい。

3 子ども会等の地域組織活動の育成助長及び指導者の養成

① こども会議（創作活動室）

(4/14、5/12、6/9、7/14、9/8、10/13、11/10、12/8、1/12、2/9、3/9)

（自己評価）

今年度で発足して2年目を迎えた。中心に頑張ったのは6年生より5年生。毎回の「こども会議」に積極的に参加し、意見を活発に言って「やる気」をみせてくれていた。イベント運営も「こどもクラブ」無しでは、厳しいと思わせるほどの活躍を随所にみせてくれ、頼もしい限りである。こういう子ども達を育成し、今後の中学、高校、大学、社会にと繋がっていける人材に成長してほしいと願って、今後も一緒にイベントを行っていきたい。大事な挨拶や人と接するコミュニケーション能力を養う場にしてほしい。

（課題と対応）

ボランティアメンバーの中にも意識の持ち方がまだまだ様々で、約束を守ろうと一生懸命、努力する子もいるが、中にはイベントのおいしい所だけ参加し、準備には来ないという残念な意識の子もまだ若干いた。（特に6年生）次年度は今の5年生が6年生となるので、しっかりした「こどもクラブ」運営が成されるのではないかと期待している。子ども達の考えや目線を中心にしたイベント運営に切り替えていくべく、大切な意見の場として今後も持っていきたい。そこには当然イベント内容だけではなく、遊びやゲーム、シアターなどなど、今の子ども達がやってみたい事、観たい映画、古き良き遊びの良さを職員が伝えられる、そんな場にしていきたい。「こどもクラブ」からのお願いで次年度は自分達がイベントのひとつを一切やってみたいとの要望も出ているので、任せようかと考えている。良い経験になる事を期待している。

#### 4 子育て家庭の支援

##### ①ひよこ広場（毎週水曜日10時30分～）

（自己評価）

昨年度同様に今年度もたくさんの乳幼児親子が参加してくれた。亀田東児童館の特徴である広い遊戯室を使ってかけっこなど運動面や目で見て楽しい、耳で聞いて楽しい内容に工夫を凝らした。職員による「寸劇」は毎回、お母さん達の笑いの場となり、少しでも癒しの場となれた事に嬉しさを感じた。また、就園を間近に控えた保護者の方に好評だったのは団体でのチーム行動や知的要素を取り入れた活動であった。そこで自分の子どもの成長を実感したという声も聞かれた。今年度の特徴としては、団体行動が苦手とする幼児が多かった。普段の「ひよこ広場」に参加するより、自由に遊戯室で遊びたい子どもの方が多かったように感じられた。季節イベントには多くの参加者がみられ、ママ友同士、連絡し合って参加するケースが増えていた。

来年度も保護者の声を聴きながら、楽しい取り組みを行っていききたい。

（課題と対応）

参加人数が増えるにあたって、駐車場の問題やトラブル、事故等に一層注意を細やかにしていかなければいけない。ひまわりクラブなど近隣の施設に協力を頂きながら駐車場の問題に取り組んできた。来年度の状況がどうしても対策が尽きたら、児童福祉係の方と相談していききたい。もう一点は、企画が楽しくても、子ども同士のケガにつながっていくようであれば意味をなさないの、その点も職員間で連携を密にしていかなければいけないのも必須である。（保護者のマナーがいいのがとても有難かった。）多くの常連親子さんが今年度で卒業されるので、また新たな常連さんを作るべく努力をしていかなければいけない。笑顔を忘れずに迎えていききたい。夕方、幼稚園、保育園帰りの親子さんの来館が増えているので、小中学生との折り合いを危険の無いよう、つけていかなければいけない。

##### ④子育てイベント（毎月1回）

（自己評価）

お母さん達の声やニーズをリサーチしながら毎月行ってきた。まずは無事故で終えた事に安堵している。お母さん達と子どもの触れ合いの場になったり、お母さんのリラクスの場になったりと色々な意味で好評の場であった。今年度も、「学生コンサート」を実施する事が出来、お母さんや幼児さん達にも喜ばれていた。人形劇や親子のふれあい遊びなども提供。年度末最後の3月には、「亀田地区公民館」との共催で「出前講座/ゆたぴー先生の幼児講座」も行えた。次年度も学生の発表の場を提供できる事と親子さんからのアンコールの声が高かったプログラムを次年度も企画していききたい。

今年度は鑑賞型のイベントを多く取り入れた事によって、近隣の保育園、幼稚園からの参加も多くみられた。今年度も2月に「入学前交流会」として区内の小学校に入学する2園児さん達を対象にミニゲームや歌の発表などを行う事が出来た。

(課題と対応)

今年度初の「国際音楽エンターテインメント」専門学校の学生からの発表を行う事ができた。楽しい歌やダンスショーを魅せてくれた。また次年度も大学や専門学校にも声をかけ、学生の発表の場となれるような歌、ダンス、などのイベントも組み込んでいきたい。親子で楽しめる工夫と安全面を考慮しながら楽しい児童館イベントを今後も企画していきたい。そして、色々な事業コラボも検討していきたい。

5 その他地域の児童の健全育成に必要な活動

今年度は第17回、第18回の亀田東児童館運営協議会を開催した。亀田東小学校長をはじめ、亀田中学校長、亀田中学校地域教育コーディネーター、亀田東小学校区コミュニティ協議会会長、江南区社会福祉協議会、保護司、指導保育士、児童委員の方々を委員とし、今年度は委員9名で行えた。今年度の協議内容はおおむね例年通りに年間行事予定、移動児童館の報告や利用者推移について議論され忌憚のない意見を出していただいた。そして何よりも、委員の方たちが児童館の必要性を理解していただき、児童館と一緒に広め、盛り上げてくださることが心強かった。そして、地域密着の児童館を目指し、来年度も、より良い児童館にして行くために御尽力いただけるよう、児童館運営をさらにより良くしていきたいと思う。また地域の方から提案が出た、「中高生交流」を次年度こそ実現していきたい。

総括・評価

今年度も年間利用者数で親子さんの利用が大幅に増えたことが、私たちにとって何よりの励みとなった。ただ、小学生、中高生の利用が減になった事は次年度の課題として受け止めていかなければならない。しかし、決して職員の努力が足りなかった訳ではないと感じている。1年間地域の子供達やその保護者に児童館を利用してもらう中で、私達職員の課題を常に皆で話し合い、視点を同じにして業務をチームで頑張ってきた事は保護者の方に理解や共有をして頂けたと思っている。だからといって反省点や改善点が無いわけではない。日々の業務やイベントを通じて、その都度反省・改善をし、それを次に活かしていくことがより良い児童館を作る上で大切だと私たち職員が分かっているからである。その姿勢は続けていく決意である。地域のみなさん、利用して頂いている保護者、行政、学校、保育園等、本当に皆さんからの応援があればこそと感謝の思いを強くした1年でもあった。今後も皆さんと共に歩む「亀田東児童館」であり、地域の拠点となれるよう努力をし、日々の業務を大切に、地域の人たちや子ども達に、一步一步寄り添えられる児童館を次年度も作りあげていきたいと思う。